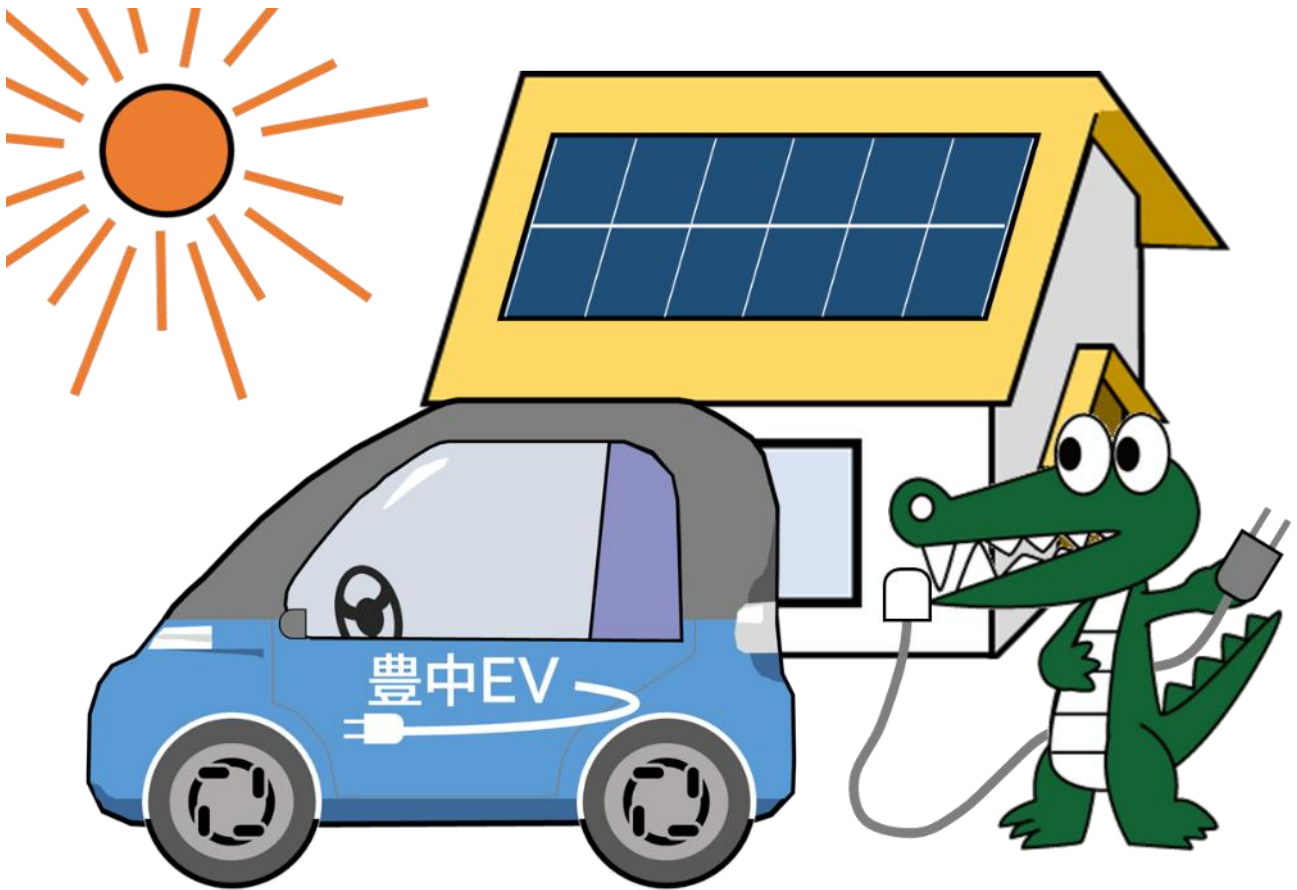


豊中市環境報告書

とよなかの環境

～2024 年度評価と今後に向けて～



令和8年（2026年）3月



目次

第1章 環境基本計画の進行管理について.....	1
1. はじめに	1
2. 第3次豊中市環境基本計画の位置付け	1
3. 計画の進行管理	2
4. SDGs と環境基本計画の関係性.....	2
5. 第3次豊中市環境基本計画の施策体系	3
第2章 環境目標の進ちよく状況等について.....	4
1. 環境目標に対する進ちよく状況の見方	4
2. 環境目標の進ちよく状況	6
3. 令和8年度（2026年度）の主な事業.....	17
第3章 環境に関する情報発信	21
1. 市民・事業者みんなで取り組もう！	21
2. 動画コンテンツ	22
3. 環境イベント	23
第4章 用語解説	26

第1章 環境基本計画の進行管理について

1.はじめに

「とよなかの環境～2024年度評価と今後に向けて～」は、平成30年（2018年）3月に策定し、令和5年（2023年）に改定した「第3次豊中市環境基本計画」の年度報告書となります。

豊中市では、環境目標に対する令和6年度（2024年度）の進ちょく状況とそれに対する審議会評価及び市の考え方について、令和7年（2025年）10月に「とよなかの環境～2024年度速報版～」を公表いたしました。「とよなかの環境～2024年度評価と今後に向けて～」は、環境審議会や市民のみなさんからのご意見もふまえた次年度の計画（プラン）についてお示しするものです。

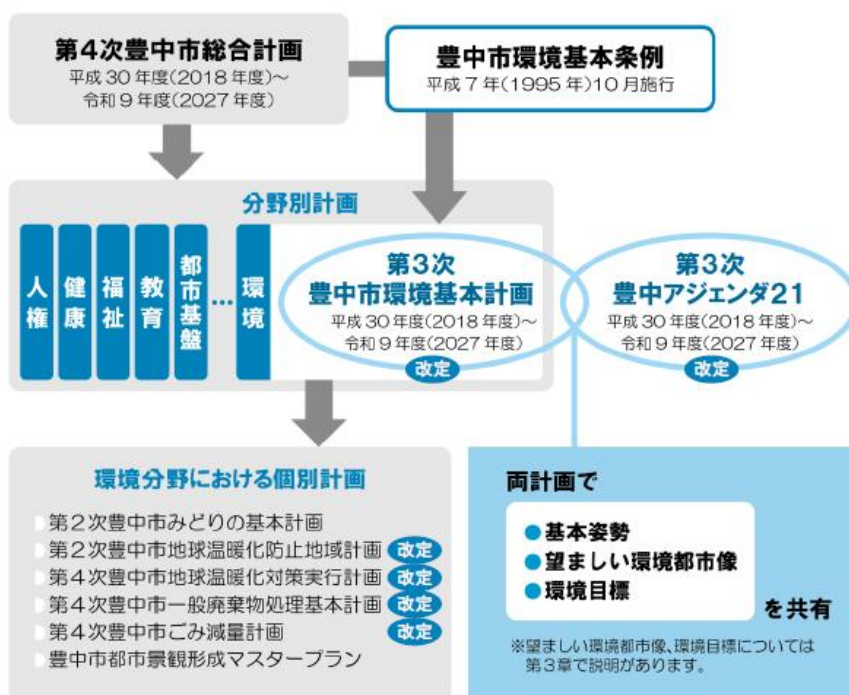
なお、関連するデータについては「とよなかの環境～2024年度評価と今後に向けて～（資料編）」に掲載しています。

2.第3次豊中市環境基本計画の位置付け

「第3次豊中市環境基本計画」は、「第4次豊中市総合計画」の環境分野の計画として、総合計画に掲げる様々な施策と共通の考えのもと、環境分野における各個別計画と整合を図っております。令和5年（2023年）3月には、「第3次豊中市環境基本計画」策定以降の環境情勢の変化や課題に対応するため、中間見直しを実施しました。

また、各個別計画については、令和3年度に「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画」、令和4年度に「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画」、「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」の見直しを実施しました。

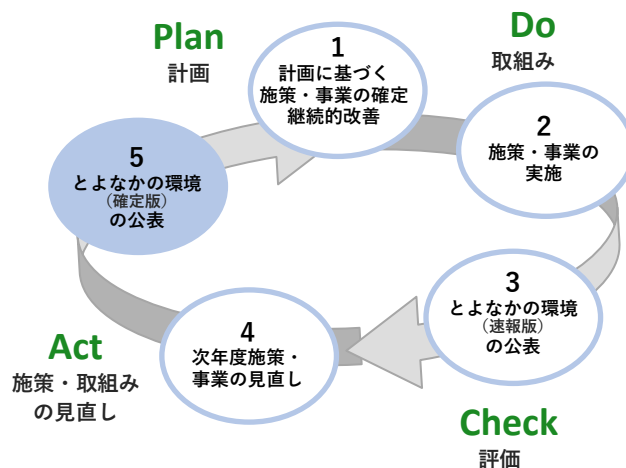
「第3次豊中アジェンダ21」は、市民・事業者・行政が協働とパートナーシップで進める地球環境を守るための行動計画であり、「第3次豊中市環境基本計画」と「基本姿勢」「望ましい環境都市像」「環境目標」を共有しています。



3. 計画の進行管理

「第3次豊中市環境基本計画」を着実に推進するため、PDCAサイクル〔計画（Plan）→ 取組み（Do）→ 評価（Check）→ 施策・取組みの見直し（Act）〕によって毎年度、環境目標の達成状況について評価・公表を行っています。

とよなかの環境は、下図のとおり前年度の進ちょく状況とそれに対する審議会評価及び市の考え方について「とよなかの環境～速報版～」を公表し、市民のみなさんの意見を募集します。さらに、環境審議会と市民のみなさんからのご意見やご提案をもとに次年度の施策・事業の見直しを行い、年度報告書として「とよなかの環境～年度評価と今後に向けて～」を公表します。このように計画の進行管理のなかで改善を図りながら、環境目標の実現をめざして取り組んでいます。



4. SDGs と環境基本計画の関係性

市では「第4次豊中市総合計画 基本構想」の中でまちの将来像「みらい創造都市とよなか～明日がもっと楽しみなまち～」をめざして、取組みを進めています。令和2年度（2020年度）には、「SDGs 未来都市」に選定され、提案内容を具体化する「SDGs 未来都市計画」を策定し、国と連携しながら、持続可能な開発目標 SDGs 全17の目標の達成に向けて、「誰一人取り残さない社会の実現」をめざしています。

「第3次豊中市環境基本計画」では、職員一人ひとりが SDGs の目標の達成に向けて取り組むとともに、市民のみなさんへチラシを配布する際やこの報告書等においても SDGs のマークを付けるなどあらゆる機会において周知しています。



5. 第3次豊中市環境基本計画の施策体系

望ましい環境都市像のさまざまな視点から捉えられたまちの像、環境分野の各目標は互いに関連しています。



基本姿勢

参加・協働

地域性・広域性・国際性

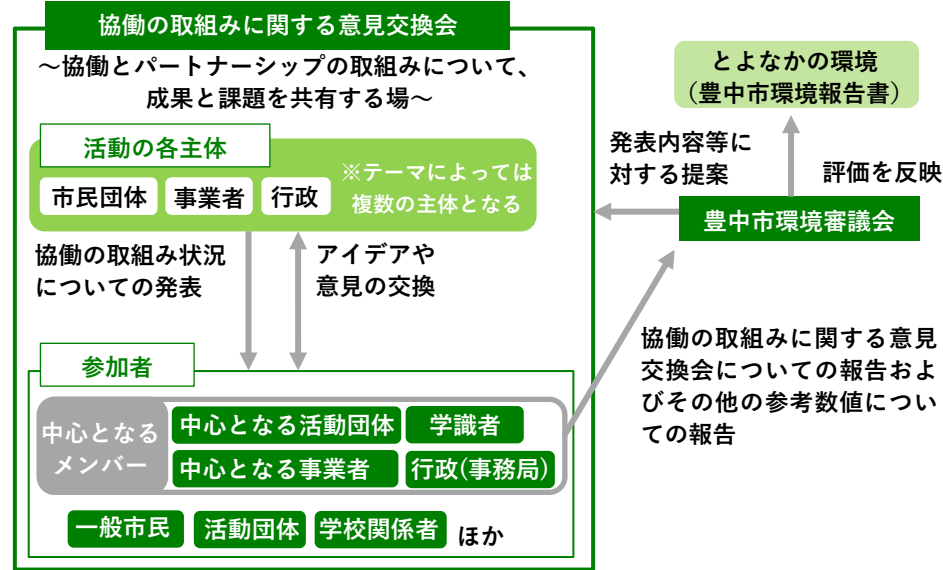
共存・共生

第2章 環境目標の進ちょく状況等について

1. 環境目標に対する進ちょく状況の見方

目標 1

協働とパートナーシップの取組みに対する評価のプロセス



協働とパートナーシップの進行管理

多様な主体のパートナーシップの取組み成果や課題を共有する「協働の取組みに関する意見交換会」を毎年開催しています。

進ちょく評価

「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」をテーマに実施した「協働の取組みに関する意見交換会」の開催結果について紹介しています。

目標 2～5

環境目標

各環境分野ごとに環境目標を設定しています。

市の取組み

市の主な取組み内容を紹介しています。

指標の進ちょく状況

代表指標は目標達成に最も影響を与えるものです。その他の指標は、代表指標を補完または影響を与えるものです。



評価の判断基準

環境基本計画の進行管理として、目標2・4は、代表指標にめやす線をひいています。めやす線と数値の関係や前年度との比較でA～Dをつけています。目標3は、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の年度目標値に比較して評価をつけています。

- A** 今年度の目標を達成しました
目標達成のめやす以下かつ前回値以下
- B** 今年度の目標を達成しましたが、さらに努力が必要です
目標達成のめやす以下かつ前回値より大きい
- C** 改善の傾向にありますが、更なる努力が必要です
目標達成のめやすより大きく、前回値以下
- D** 改善の傾向がありません
目標達成のめやすより大きく、前回値より大きい

目標5は、すべての環境基準を達成した場合「A」、達成していない場合「D」をつけています。

要因分析

環境目標の進ちょく状況について、「どうしてこのような結果になったのか」要因分析をしています。

市民からの意見及び審議会評価、市の考え方について

環境審議会評価

・代表指標である「市民 1 人あたり温室効果ガス排出量」は順調に減少しており、市民・事業者のエネルギー消費削減の取組みの成果が一定表れていると評価ができます。また、再生可能エネルギー等設備導入量も増加していますが、豊中市は市街地であるため大規模な設備導入は難しいと考えられることから、長期的にみると設備の導入量の増加は鈍化していくことが想定されます。また、温室効果ガス排出量の減少は、市の取組みの影響を受けにくい電力の排出係数の低減も一因であり、市の取組みの効果を測りにくくなっています。

・今後は、自然を活用した解決策(NbS: Nature-based Solutions)や環境価値(CO2 削減等に資する価値)などの活用による温室効果ガスの削減や「パロプスカイト太陽電池」などの新技術の活用、また市内の再生可能エネルギー導入状況や省エネ対策を実施している建物の普及率等の新たな指標を設定するなどの市の取組み効果を適切に評価できる仕組みを検討する必要があります。

環境審議会評価

環境目標の達成状況に対する環境審議会の評価を記載しています。

市民からの主な意見（案）（57 件）

【省資源・省エネルギーを通じた脱炭素社会の実現】39 件

- ・地球温暖化が進み、今こそひとり一人が行動できることから取り組むべきと強く感じた。
- ・取り組みたいとは思っているが、何をしたらよいか分からない。どのような行動をすれば、少しでも貢献できるのか教えて欲しい。
- ・温室効果ガスや脱炭素は目に見えず、削減による直接的な効果は分かりにくいので、市民に馴染みのないものを感じると思う。

【再生可能エネルギー等の活用促進】4 件

- ・集合住宅の屋上や壁、戸建て住宅の屋根への新しい太陽電池の設置など活用の余地は大きく残されており、まずは公共施設、学校や公民館などから始めて順次民間住宅に広げていくことは考えられないか。

【環境に配慮した運輸部門における施策の推進】14 件

- ・電気自動車や充電スポットの導入の取組みが良いと思う、今後も拡大してほしいと思う。
- ・移動に自転車や電車・バスなど公共交通機関を使うように心がける程度の取組みしかできないが、これからは微力ながら協力したい。

市民からの意見

「とよなかの環境（速報版）」を市ホームページや公共施設などで公表し、市民の方から市の環境の取組みについていただいた主な意見を記載しています。

市の考え方

- 建物の耐震性等の課題により、これまで太陽光発電設備の設置ができなかった施設に新技術を活用した設備の導入を検討するなど、市が率先して新たな知見を取り入れながら脱炭素につながる取組みを進めることで、市民・事業者の省エネ行動や再生可能エネルギー導入などに繋げていきます。
- 市では、自然資源を活用した取組みとして、豊富な森林資源を有する能勢町、島根県島根市の島町、兵庫県六甲市などと連携協定を締結し、森林整備等によるカーボン・オフセット事業や市有施設における木材利用を進めており、引き続き、自然資源や環境価値のさらなる活用を検討いたします。
- 現行の「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画(改定)～とよなか・ゼロカーボンプラン～」は令和9年度(2027年度)に計画の最終年度を迎えることから、社会情勢等もふまえながら目標の見直しを行うとともに、市域の状況を適切に把握するために新たな指標を設定するなど、2050年ゼロカーボン達成に向け次期計画の内容を検討していきます。

市の考え方

市の今後の対応や施策事業の考え方を記載しています。

市民意見募集について

「とよなかの環境 2024 年度(速報版)」について、市ホームページ等で公表し、下記の日程で環境に関する市民意見を募集しました。

○意見募集期間

令和 7 年(2025 年)11 月 1 日(土曜日)から令和 7 年(2025 年)11 月 30 日(日曜日)まで

○募集方法

WEB 応募(電子申込システム)

○募集結果

回答者数:276 人

意見数:436 件(内、環境に関して記述された意見 414 件)

【内訳】目標 1:48 件、目標 2:57 件、目標 3:157 件、

目標 4:123 件、目標 5:18 件、

報告書全体に関すること:11 件、

その他:22 件



2.環境目標の進ちょく状況

環境分野 ▶ 環境政策を推進するための総合的なしくみづくり

目標
1

よりよい環境をめざして多様な主体の
パートナーシップで取り組む



2024 年度の取組み

環境交流センター

環境交流センターを起点に、地球環境保全等に関する活動のための交流の場の提供、情報の収集及び提供、講座の開催及び啓発などを実施



事業者等との連携

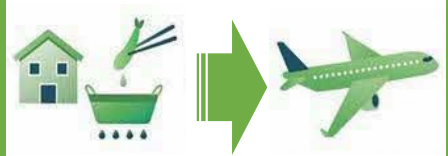
ペットボトルリサイクル協定

使用済みペットボトルの一部を新たなペットボトルにリサイクルする BtoB (ボトル to ボトル) に関する協定を締結



SAF に関する連携協定

廃食油を原料とした SAF (持続可能な航空機燃料) の製造推進に関する協定を航空会社と締結



2024 年度の協働の進ちょく状況

「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマ

「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」

豊中市における「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」関係図

令和4年度意見交換会で子ども服リユースの実証実験結果について発表



発展

取組み事例1 子ども服リユース



協働団体・連携部局の増加などにより
回収量・配布数が増加

取組み事例2 おゆずりぐるり



子ども服リユースの仕組みの
構築を実現

開催結果【テーマ「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」】

特徴・成果

①複数の分野・主体による協働の推進

ごみの削減のために
何かしたい！

活動の
きっかけ

社会復帰を支援したい！

育休中でママ友もいない。
コミュニティに参加したい！

就労支援やボランティア
活動を支援したい！

孤立しがちな子育て世代の
ために何かしたい！

行政の関係部局に加え、子育て支援団体や就労支援団体、事業者や中間支援団体など、
様々な立場の団体・主体が様々な活動のきっかけを経て協働に参加している。

②協働のための「仕組み」構築

複数の分野・主体が参加し、子ども服の回収から
管理、配布までを含んだ子ども服リユースのしくみ
「おゆずりぐるり」を構築している。



協働の広がりが、事業の広がりに繋がり、
様々なきっかけにより、人と人とが交流し、
新たなコミュニティが形成されている

今後の展望・活動のヒント

意見交換会では、
取組み発展のためのアイデアがたくさんでした。

活動者拡大に向けたアイデア

- ・活動者の世代を広げていく工夫がいると思う。
- ・活動したいと思った人が情報をキャッチできるようにしたい。
- ・学生がやりたい企画と子ども服リユースを組み合わせると新しい取組みをつくれると良い。
- ・ボランティアポイントなど、活動者のモチベーションアップの仕組みが欲しい。
- ・来場者にリユース服のハンガー掛けなどの作業協力をお願いするなど、来場者にも参加してもらえるような取組みができると良い。



利用者拡大に向けたアイデア

- ・SNS を使うなど、効果的な情報の魅せ方が大切だと思う。
- ・子育て世代みんなが情報をキャッチできる工夫が必要である。
- ・環境問題やごみの減量が、堅苦しく考えずに楽しい活動として捉えられるような工夫がいると思う。

持続可能な取組み推進に向けたアイデア

- ・皆が幸福感や満足感を感じられる取組みにしたい。
- ・配送コストや環境への配慮の観点から、回収拠点と配布場所は近い方が良い。

あなたも「おゆずりぐるり」に
参加しませんか？

子ども服リユースの取組みは、市内の各所やイベントで実施されています。
常設拠点やイベント開催予定など、公式 SNS で紹介しています。



公式 SNS (Instagram)
はこちら

環境審議会評価

- ・今年度の意見交換会「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」について、子ども服をうまく資源循環させる仕組みの構築に加えて、子育てに悩む保護者同士のコミュニティの場にしたいなど、多様な主体が様々な思いで活動に参加していることから協働による取組みが広がっています。また、「子育てしやすさNo.1」を掲げている豊中の施策の一つとしてPRするなど、今後の取組み推進を期待します。
- ・協働とパートナーシップの進行管理について、定量評価(数値による評価)が難しい分野であるため、協働の取組みに関する意見交換会の結果を踏まえた定性評価(数値では表せないものに対する評価)を行っているが、今回の意見交換会で共有された取組みの成果や課題、アイデアなどを分析するとともに、今後も意見交換会での事例を他事例に活かしていくための工夫が必要と考えます。

市民からの主な意見（48件）

【環境情報の提供】10件

- ・知らない情報が多い。この報告書をマチカネアプリで知った。情報を知る手段として、アプリも便利だなと思う。

【環境に関する教育・学習と意識啓発の推進】5件

- ・世代や分野を超えて意見交換できる場や、市民が気軽に関わられる環境活動の機会をさらに広げてほしい。みんなで力を合わせることで、より住みよい豊中になることを期待する。

【協働とパートナーシップに基づく施策の推進】33件

- ・環境行政の推進は、市民、事業者、行政が各々の役割を担うと共に、各々が連携しながら継続していくことが重要だと思う。その中で行政の役割は、推進する為の仕組み・仕掛け・きっかけ作りである。
- ・行政だけでなく、市民、企業、学校、地域団体などが協力して環境づくりに取り組むという方針にとても共感した。多様な立場の人々が意見を出し合い、連携することで、より実効性のある取組みが生まれると思う。私自身も身近なところから参加し、協力していきたいと感じた。
- ・「使用済み子供服を活用した資源循環の取組み」と同じ仕組みを活用した、別のリユースシステムを作るなどの展開にも期待したい。

市の考え方

- 今回の意見交換会では、「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」が中間支援団体の参画やボランティア登録制度などにより、子育て支援団体や就労支援団体を巻き込んだ取組みに広がっていることが成果としてあげられました。今後も、「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」について、資源の有効利用及びごみの発生抑制に加えて、子育て世帯の支援につなげるため取組みを推進していきます。
- 今回の意見交換会を受けて、現状の仕組みにとらわれず、時代に合った柔軟な考え方を取り入れること、また、活動のきっかけは多様であるため、様々な視点で仲間を拓けることは、取組みの拡大・継続につながっていることが再確認できました。今後も、多様な主体による協働の取組みを推進するため、多角的な視点から取組みを拓げ、進めていきます。
- 多様な主体のパートナーシップによる取組みは非常に重要であるため、環境政策を推進するための協働のしくみづくりとして、柔軟で効果的な方策を次期計画策定に向けて検討していきます。

目標
2

1人あたり温室効果ガス排出量 (t-CO₂) を令和9年度(2027年度)までに、平成2年度(1990年度)比38.3%削減し、脱炭素社会をめざす



2024年度 の 取組み

事業者向け
脱炭素経営セミナー

市内の中小事業者を対象に、脱炭素経営を進める必要性等について脱炭素経営セミナーを開催



電気自動車普及啓発

電気自動車等購入
補助金対象者を拡大

事業者向け電気自動車等購入支援補助金の対象を市民へ拡大



市有施設に
EV充電器を設置

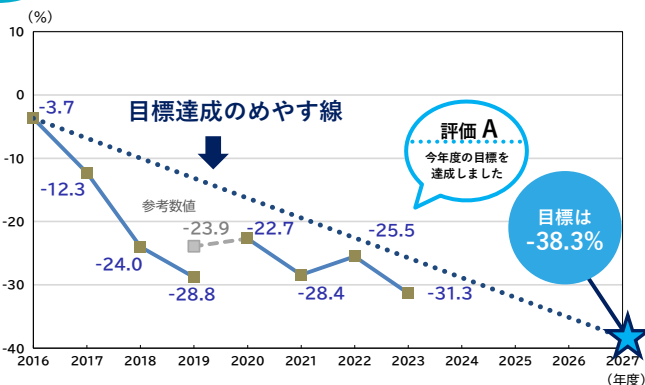
電気自動車の利用環境を整備するとともに、普及促進につなげるため、新たに市有施設2か所にEV充電器を設置



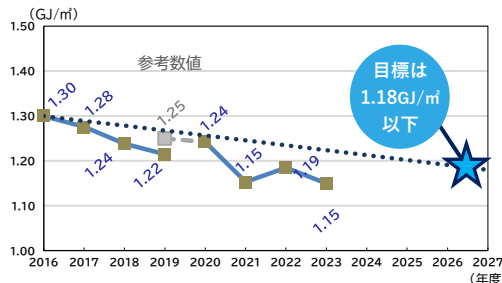
指標の進ちょく状況

代表
指標

市民1人あたり温室効果ガス排出量(t-CO₂/人)
平成2年度(1990年度)比(%)



業務部門の床面積1㎡あたりの
エネルギー消費量(GJ/㎡)



※2020年度以降、市域の部門別消費電力量のデータの出典が変更となったことから、2019年度以前の推計値と非連続になっています。そのため、2019年度から2020年度の全国的な消費電力量変化が豊中市においても生じたと想定して参考数値を算出しています。

指標	目標	前回値 2022年度	直近値 2023年度
部門別温室効果ガス排出量(t-CO ₂) 平成2年度(1990年度)比(%)	産業部門	-66.0	-64.0
	家庭部門	-32.0	+1.5
	業務部門	-11.0	-9.7
	運輸部門	-46.0	-32.1
	廃棄物部門	-33.0	-4.6

指標	目標	前回値 2022年度	直近値 2023年度
家庭部門市民1人あたりエネルギー消費量(GJ/人)	減少	13.6	13.1
再生可能エネルギー等設備導入量(kW)	増加	28,772	30,797
市民1人あたりの自家用車の登録台数(台/人)	減少	0.248	0.248
市内に登録された自動車1台あたりの温室効果ガス排出量(t-CO ₂ /台)	減少	1.39	1.39
市内に登録された自家用乗用車のうち電気自動車等の割合(%)	増加	26.9	29.7

進ちょく状況に対する要因分析

市民1人あたりの温室効果ガス排出量は、目標達成のめやす線を下回っており、順調に減少しています。温室効果ガス排出量の減少には、電力の排出係数が前年度より低減した影響が大きいと考えられますが、エネルギー消費量はすべての部門で減少していることから、各部門において省エネ化が進んでいると考えられます。

環境審議会評価

- ・代表指標である「市民 1 人あたり温室効果ガス排出量」は順調に減少しており、市民・事業者のエネルギー消費量削減の取組みの成果が一定表れていると評価ができます。また、再生可能エネルギー等設備導入量も増加していますが、豊中市は市街地であるため大規模な設備導入は難しいと考えられることから、長期的にみると設備の導入量の増加は鈍化していくことが想定されます。また、温室効果ガス排出量の減少は、市の取組みの影響を受けにくい電力の排出係数の低減も一因であり、市の取組みの効果を測りにくくなっています。
- ・今後は、自然を活用した解決策(NbS: Nature-based Solutions)や環境価値(CO₂削減等に資する価値)などの活用による温室効果ガスの削減や「ペロブスカイト太陽電池」などの新技術の活用、また市内の再エネ電力導入状況や省エネ対策を実施している建物の普及率等の新たな指標を設定するなど市の取組み効果を適切に評価できる仕組みを検討する必要があります。

市民からの主な意見（57件）

【省資源・省エネルギーを通じた脱炭素社会の実現】39件

- ・地球沸騰化が進み、今こそひとり一人が行動できるところから取り組むべきと強く感じた。
- ・取り組みたいとは思っているが、何をしたらよいかわからない。どのような行動をすれば、少しでも貢献できるのか教えて欲しい。
- ・温室効果ガスや脱炭素は目に見えず、削減による直接的な効果は分かりにくいいため、市民に馴染みのないものに感じると思う。

【再生可能エネルギー等の活用促進】4件

- ・集合住宅の屋上や壁、戸建て住宅の屋根への新しい太陽電池の設置など活用の余地は大きく残されており、まずは公共施設、学校や公民館などから始めて順次民間住宅に広げていくことは考えられないか。

【環境に配慮した運輸部門における施策の推進】14件

- ・電気自動車や充電スポットの導入の取組みが良いと思い、今後も拡大してほしいと思う。
- ・移動に自転車や電車・バスなど公共交通機関を使うように心がける程度の取組みしかできないが、これからの微力ながら協力したい。

市の考え方

- 建物の耐震性等の課題により、これまで太陽光発電設備の設置ができなかった施設に新技術を活用した設備の導入を検討するなど、市が率先して新たな知見を取り入れながら脱炭素につながる取組みを進めることで、市民・事業者の省エネ行動や再エネ導入などにつなげていきます。
- 市では、自然資源を活用した取組みとして、豊富な森林資源を有する能勢町、島根県隠岐の島町、兵庫県宍粟市などと連携協定を締結し、森林整備等によるカーボン・オフセット事業や市有施設における木材利用を進めており、引き続き、自然資源や環境価値のさらなる活用を検討いたします。
- 現行の「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画(改定)～とよなか・ゼロカーボンプラン～」は令和9年度(2027年度)に計画の最終年度を迎えることから、社会情勢等もふまえながら目標の見直しを行うとともに、市域の状況を適切に把握するために新たな指標を設定するなど、2050年ゼロカーボン達成に向け次期計画の内容を検討していきます。

環境分野 ▶ 廃棄物の減量および適正処理を通じた循環型社会づくり

目標
3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす



2024年度の取組み

豊中エコショップ制度のイベント開催

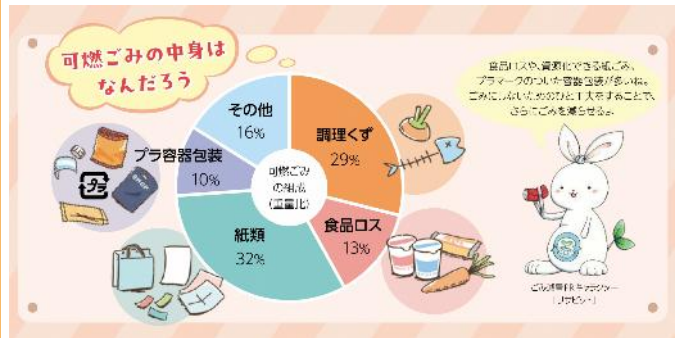
豊中エコショップ制度の周知啓発を目的に、「エコ de さんあい豊中エコショップ+第13回さんあいイベント」を開催



子どもを中心に広く募集した環境に関する写真や絵画等をラッピングしたごみ収集車のお披露目式を併せて実施

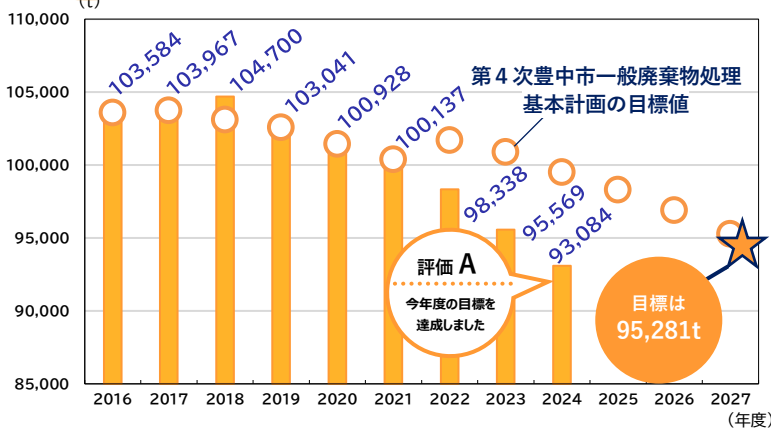
家庭系ごみ排出実態調査の実施

市民のごみ分別意識や排出状況を把握し、市の次期計画に反映させるため、家庭系ごみ排出実態調査を実施

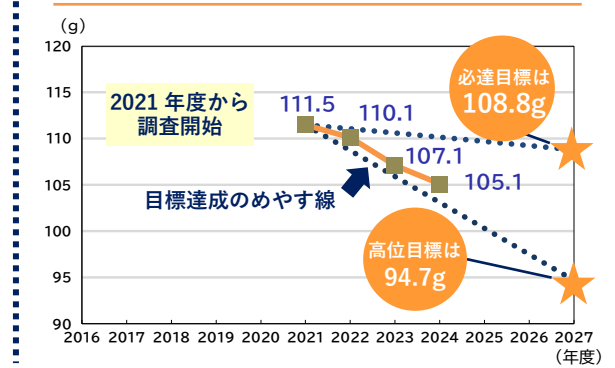


指標の進ちょく状況

代表指標 焼却処理量 (t)



食品ロス 1人1日あたり量 (g)



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
家庭系ごみ1人1日あたり排出量(g) (再生資源は除く)	394	387	379
事業系ごみ排出量(t) (再生資源は除く)	36,601	37,634	36,711



進ちょく状況に対する要因分析

ごみの焼却処理量は、引き続き減少しており、令和9年度（2027年度）までの目標値を達成しています。家庭系・事業系共にごみの排出量が減少するとともに、リサイクル率が微増しています。物価高騰による個人消費抑制に伴うごみの発生抑制や、ごみの適正処理の意識の浸透などの影響が考えられます。

環境審議会評価

- ・代表指標である「焼却処理量」については目標値を達成しており、順調に進んでいます。これは、物価の高騰による消費抑制という要因だけでなく、市民の環境意識の向上やこれまでのごみ減量施策によるものであると考えられます。
- ・引き続き、家庭系・事業系のごみの減量に向け、社会情勢がどのように変化しても継続してごみを減らす、再資源化を促進する取組みを推進するとともに、「食品ロス」の削減に向けた取組みを推進していくことが必要です。

市民からの主な意見（157件）

【廃棄物の減量に向けた発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進】151件

- ・ごみの量が減ったのは、物価高騰で家庭での購入量が減っただけではなく、ごみの分別が徹底されてきたことも要因の一つではないかと思う。
- ・家庭から出る可燃ごみの内容物の割合調査が興味深かった。リサイクルできる資源が多く含まれている事に驚き、改めて自分のごみの捨て方について考えることができた。
- ・マチカネポイントアプリの利用時に、豊中エコショップの存在を知ったが、事業者も巻き込んで、豊中市の環境向上に取り組んでいることが分かった。
- ・食品ロスの多さは何とかしたいと思う。必達目標の達成にとどまらず、高位目標をめざしてほしい。
- ・次世代への食への学びを深める機会を多くしてほしい。

【廃棄物の適正処理の推進】6件

- ・ごみの処理におけるリチウムイオン電池の危険性について啓発が必要と感じる。

市の考え方

- 物価高騰による消費抑制の影響もありますが、社会全体における環境意識については定着しつつあり、市民・事業者・行政が一体となっごごみの減量に向けた取組みを継続していることにより、順調にごみ減量していると考えます。今後も社会情勢によるごみの排出量への影響を注視しながら、発生抑制を第一とし、効果的なごみ減量普及啓発事業を推進します。
- 食品ロス対策については、ごみの減量はもとより、食べ物を無駄にしないことを大前提とし、意識変容を促す普及啓発の実施、また、生産から消費までを全体の流れとして捉え、市民、事業者、関係団体等の多様な主体と連携した取組みについて継続して実施します。

環境分野 ▶ 都市における自然との共生をめざした社会づくり

目標
4

みどり率 27%で
心豊かな豊中らしいまちをめざす



2024 年度の取組み



とよなか花いっぱい大作戦



花いっぱい運動を拡充した「とよなか花いっぱい大作戦」を開始
花いっぱいのまちづくりをめざし、住民・事業者からサポーターとスポンサーを募集

グリーンインフラによるまちづくり
基本方針

多面的に機能するようみどりの「質」を高めるとともに、憩いの場の創出や賑わい空間の形成などにより、様々な人が集えるよう公園みどりを展開していくことを目的に策定



緑化樹配布

マンションや企業、学校、子ども園などへ、キンモクセイやレッドロビンなどの樹木を配布し市内の緑化を推進

(過去5年間で約 12,000 本配布)



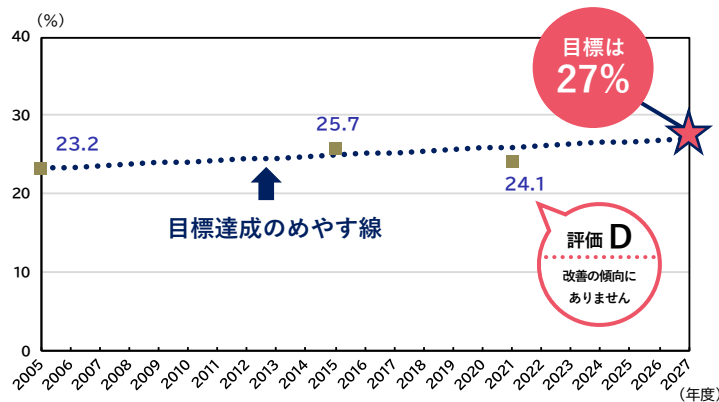
生物多様性の啓発



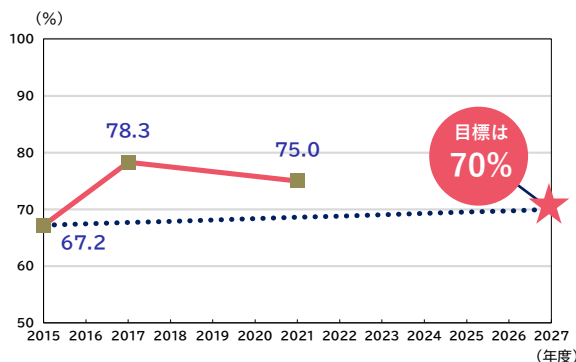
ふれあい緑地のビオトープを活用した生きもの観察や生きものを呼び込むための市民とのフィールド整備など、まちなかの公園で体験できる生物多様性について啓発

指標の進ちょく状況

代表指標 みどり率(%)



みどりに対する満足度(%)



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
緑被率(%)	15.7	—	—
市民1人あたりの公園・緑地面積(m ² /人)	7.17	7.12	7.12
みどりに関するイベント参加者数(人)(累計)	累計 150,000	64,644	79,006

指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
市民参加による生物調査の参加者数(人)	増加	31	53
生物多様性の認知度(%) (「言葉の意味を知っていた」の回答比率)	増加	—	—
景観に関する項目が盛り込まれている地区計画・協定等の数(件)	増加	49	48

進ちょく状況に対する要因分析

みどり率は、開発行為や自然災害の影響による樹林・樹木の減少、草地・芝地・屋上緑化の増加や樹木の生育状況を総合して、減少傾向となっています。

みどりについては、市民参加や環境配慮を重視し、効果的な施策の改善と持続的な取組みが必要です。

みどりに関する指標の用語説明

第2次豊中市みどりの基本計画では以下のとおり定義しています。
みどり: 樹林・樹木、草地、農地、水面、屋上緑化、これらと一体となったオープンスペースなどの緑地のこと。
みどり率: 樹林・樹木、草地、農地、水面、屋上緑化が市域に占める割合
緑被率: 樹林・樹木の面積が市域に占める割合

環境審議会評価

- ・代表指標である「みどり率」については、計画で掲げる目標達成に向けて、「自然環境の保全」、「生物多様性の保全」等の視点からも引き続き取り組む必要があります。また、緑地は主観的な満足だけではなく、都市構造への影響等さまざまな効果があると考えられることから、令和8年度(2026年度)に実施する調査では、それらも考慮した多角的な視点での評価を取り入れていくことを期待します。
- ・「みどりの満足度」については高い水準を維持しており、「とよなか花いっぱい大作戦」等みどりと触れ合うような機会を積極的に設ける施策を推進していることは評価できます。また、生活が豊かになることをめざして、みどりの質を高める「グリーンインフラによるまちづくり基本方針」を策定しており、複合的な観点から豊中らしいまちの実現を期待します。

市民からの主な意見（123件）

【受け継がれてきたみどりの保全や育成】52件

- ・公園整備やみどりの保全に取り組んでいることに共感した。みどりのあるまちは景観が美しいだけでなく、心の安らぎや地域のつながりを育む大切な要素だと思う。
- ・数年で竹林が減って行くのをすごく体感しており、生物や環境の変化が気になる。

【都市のみどりや地域の身近なみどりの創出】38件

- ・「花いっぱい大作戦」で子どもたちが、みどりに触れて愛でる心が、芽生える事は良い。

【みどりを活かした安全で快適なくらしの実現】18件

- ・市民が気軽に参加できる植樹活動や花壇づくり、みどりを楽しむイベントをさらに充実させてほしい。自然と人が共に生きる、心豊かなまちづくりを期待する。
- ・みどりの質の向上をめざし、公園の整備に取り組まれているのも素晴らしいこと。みどりも賑わいも溢れる公園が増えることを期待している。

【生物多様性の総合的な保全と活用】6件

- ・ふれあい緑地のビオトープは展示している生物を見て学び、生き物、植物に触れ合えるのでとても良い取り組みだと思う。

【都市景観・歴史環境、快適環境の保全・創出】9件

- ・緑化や清掃などの活動に、ゆるく気軽に参加出来ると良いなと思うが、身近にどのような活動があるのかあまり知られていないように感じる。

市の考え方

- 代表指標である「みどり率」等を令和8年度(2026年度)に調査し、これまで実施した施策の効果や自然災害などの影響を把握する予定です。調査結果や社会情勢等を踏まえて、目標達成に向けた努力とともに、自然環境や生物多様性の保全の視点も取り入れた効果的な施策の進め方や多角的な評価のあり方について検討していきます。
- 「みどりの満足度」については、令和6年度(2024年度)に策定した「グリーンインフラによるまちづくり基本方針」で既存のみどりが持つ多面的な機能により、憩いの場の創出や賑わい空間の形成を進め、みどりの質を高める考え方を示しました。今後、「とよなか花いっぱい大作戦」、「とよなか公園魅力アップツアー事業」、「緑化樹配付」など、市民や事業者と共に新たなみどりの創出やみどりが持つ様々な価値を高めながら、みどりの量に加え、質の向上もめざします。

目標
5

環境基準の達成状況 100%で
快適な都市環境をめざす



2024 年度の取組み

民間施設をクールスポットに指定

市有施設に加えて、新たに民間施設3か所を、熱中症対策として一時的に暑さから逃れ休憩できる「クールスポット」に指定



緑化計画の協議

開発行為において、壁面緑化や屋上緑化など多様な緑化計画を協議

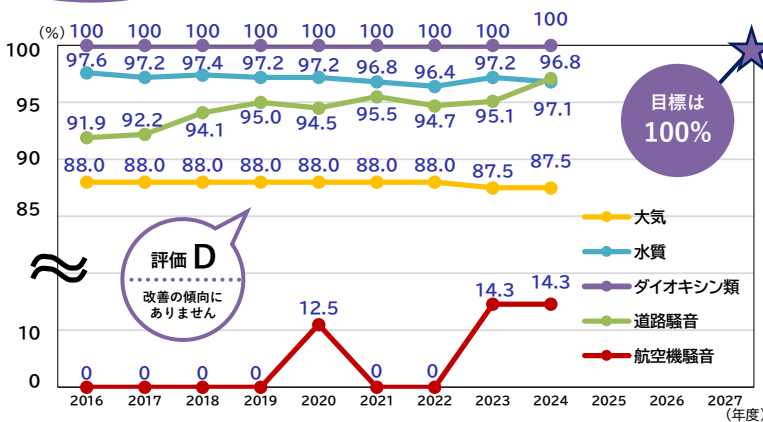


豊中市伊丹市クリーンランド HP

指標の進ちょく状況

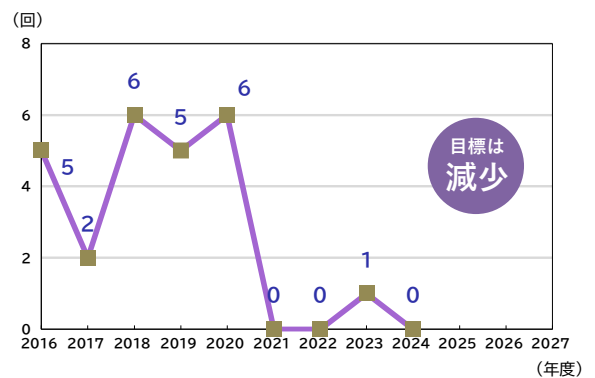
代表指標

環境基準達成状況(%)



大気に関する注意喚起回数(回)

(光化学スモッグ予報・注意報、PM2.5(微小粒子状物質))



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
雨水排水整備率(%)	増加	82.1	82.2
環境配慮のうち 雨水利用に 関するもの (累計)	雨水利用の 件数(件)	11	11
	雨水利用の 容量(L)	202,530	202,530



進ちょく状況に対する要因分析

大気、水質、道路騒音では高い環境基準達成率を維持しています。
環境基準を達成していない項目については広域的な課題・自然由来の影響となっています。
大阪国際空港の着陸ルート直下に位置していることから、航空機騒音は達成率が低い状況が続いています。

環境審議会評価

- ・代表指標である「環境基準達成状況」では、航空機騒音を除いて、高い環境基準達成率を維持しています。航空機騒音については、引き続き、常時監視業務を行うとともに、騒音低減に向けて関係機関へ働きかける必要があります。
- ・空港周辺地域については、例えば農業用地の整備をすること等で緑地の持つ遮音効果を利用するなど、環境改善に向けた取組みや、地域の特性を生かした公園等地域の活性化に向けた取組み推進に期待します。
- ・市民や市の取組みだけでは改善が困難な指標については、より取組みの進ちょくがわかるよう検討が必要です。

市民からの主な意見（18件）

【環境汚染防止対策の充実】6件

- ・環境基準達成状況の評価はDでしたが、航空機騒音など市の取組だけでは難しい点を除けば概ね高い基準であることに安心した。
- ・目標達成を実感しづらい難しい目標だと思うが、継続してわかりやすい情報発信をしてほしい。

【都市・生活型公害対策の推進】11件

- ・航空機騒音については、影響ある地域に居住されている市民にとっては大きな問題であると思う。ふれあい緑地や新たに出来た豊中つばさ公園『ma-zika』などの騒音緩衝&魅力向上の役割を、市民のみならず多くの人に広報し、マイナスをプラスに変えてほしい。
- ・民間施設のクールスポットは、災害対策と同じくらいとても大切だと思う。しかしクールスポットや給水所が日常生活する上でどこか分かりにくいいため、看板や貼り紙などで周知してほしい。

【健全な水環境・水循環の創出】1件

- ・ゲリラ豪雨多発などもあり、雨水排水整備率は更に上がって欲しい。

市の考え方

- 引き続き高い環境基準達成率を維持できるように、必要な措置を継続するとともに、市内の公害状況を調査し、ホームページ等でわかりやすく評価・公表していきます。航空機騒音については、低騒音型機の導入を要請するなど、引き続き関係機関と連携しながら騒音対策を進めます。
- 空港周辺地域では、緩衝緑地の整備を進めてきましたが、加えて最近では、航空機の着陸を間近で鑑賞できるスポットとして「豊中つばさ公園『ma-zika』」の整備を進めるとともに、走井地区内緩衝緑地では、草花の育成や同地の開放イベントを実施しています。引き続き地域の環境改善及び活性化に向けた取組みに努めます。
- 指標について、改善は進んでいるものの市民や市の取組みだけでは達成が困難な項目があり、取組みの進ちょくがわかりにくい状況が続いています。指標や目標のあり方など、次期計画策定に向けて検討していきます。

3. 令和8年度（2026年度）の主な事業

環境審議会と市民のみなさんからの意見をふまえ、令和8年度（2026年度）はこれまで実施している事業も含めて以下に示す事業に取り組みます。

《目標1》

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額 (千円)
とよなか市民環境展	市民・事業者・行政の環境問題解決に向けての取り組みの発表と交流の場を設け、行動計画「第3次豊中アジェンダ21改定版」の普及啓発を図ります。	ゼロカーボンシティ推進課	3,383
環境学習の推進	環境への関心や環境の現状等に関する正しい認識をもち、環境に配慮したライフスタイルを実践できるよう、家庭や学校、地域団体などにおける環境学習を推進します。	ゼロカーボンシティ推進課	5,117
環境交流センター運営管理	地球環境の保全、環境への配慮、資源・エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量に関し、活動のための交流の場や情報の提供等を行います。環境交流センターについて、令和7年度の選定評価委員会による中間評価を受け、活性化・充実化を進めるとともに、次期指定管理者選定に向けた検討を行います。	ゼロカーボンシティ推進課	22,034
環境基本計画の推進	「第3次豊中市環境基本計画(改定)」で定めたPDCAサイクルに基づいて施策・事業の進行管理を図り、環境報告書を公表します。また、環境分野における新たな課題や新技術に対応するため、外部機関と連携することにより、多方面から情報を収集し、実践につなげるなど環境施策の総合的かつ計画的な推進を図ります。「第4次豊中市環境基本計画」策定に向けた調査・検討に取り組みます。	ゼロカーボンシティ推進課	11,910
豊中アジェンダ21の普及促進	地球環境を守る市民・事業者・行政の行動計画「第3次豊中アジェンダ21改定版」に基づく取り組みの普及促進を図ります。	ゼロカーボンシティ推進課	1,269

《目標2》

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額 (千円)
地球温暖化対策実行計画の推進	「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）改定」に基づき、電力の地産地消、省エネ機器への更新、カーボン・オフセット事業の実施、電力の調達に関する環境配慮方針の運用を行うなど、市の事業実施に伴い発生する温室効果ガスの削減に取り組みます。また、「第5次豊中市地球温暖化対策実行計画」策定に向けた調査・検討に取り組みます。	ゼロカーボンシティ推進課	6,469

事業名称	内 容	主な 担当部局	予算額 (千円)
地球温暖化防止地域計画の推進	「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画（改定）」に基づき、事業者の脱炭素経営を支援するとともに、市民・事業者に向けた省エネ活動の普及啓発や、再生可能エネルギーの導入、住宅の省エネルギー化促進などを進め、市域の温室効果ガスの排出量を削減します。また、「第3次豊中市地球温暖化防止地域計画」策定に向けた調査・検討に取り組みます。	ゼロカーボンシティ推進課	23,010
スマートハウス等支援補助金	住宅の省エネルギー化等に係る設備の普及を促進し、家庭からの温室効果ガス排出量を削減するため、ネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）、断熱リフォーム、太陽光発電システム、燃料電池システム（エネファーム）、蓄電池の設置支援補助を実施します。	ゼロカーボンシティ推進課	23,276
電気自動車等購入支援補助金	電気自動車等の普及を促進し、自動車における温室効果ガス排出量を削減するため、事業者及び個人（市民）に対して、電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）、プラグイン・ハイブリッド車（PHV）の購入支援補助を実施します。	ゼロカーボンシティ推進課	10,023

《目標3》

事業名称	内 容	主な 担当部局	予算額 (千円)
ごみ減量普及啓発事業	効果的なごみ減量施策に取り組むとともに、事業者と連携した循環型社会の形成を推進することで市民の環境に対する意識の向上と行動変容を促します。	減量計画課	4,540
廃棄物関連計画の推進	「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理を行います。令和8年度は「第5次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第5次豊中市ごみ減量計画」の策定に向け、骨子案を作成します。	減量計画課	8,689
事業ごみ減量対策事業	事業活動に伴い多量の一般廃棄物を排出する事業所に対してごみ減量計画書の提出を求め、それに基づき取り組み状況を立入調査で確認・助言するとともに、他の事業所での先進的な取組み事例等の紹介を情報誌の発行を通して提供するなど、事業者の自発的な取組みを支援します。	環境指導課	354

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額 (千円)
再生資源集団回収報奨金交付事業	再生資源を回収する登録市民団体や登録行商者に対して再生資源の回収量に応じた報奨金を交付します。リサイクルの推進に向けて、多くの市民が集団回収活動に参画出来るよう、未実施である地域団体へのPR活動を展開し、新規登録団体の獲得を図るとともに、既存の登録団体に対しても回収量増に向けた働きかけを行い、地域コミュニティの維持、活性化に繋げていきます。	家庭ごみ事業課	26,033
分別周知事業	市民から、ごみの分別を通じた3R推進の取組みへの理解と協力を得るため、広報活動の充実化として、ごみカレンダーの作成・全戸配布等の取組みにより、市民サービスの質的向上を図ります。	家庭ごみ事業課	14,450
小型家電リサイクル事業	公共施設等に専用の回収ボックスを常設し拠点回収を行うことにより、ごみの減量及びリサイクルの推進を図ります。	家庭ごみ事業課	102
リユース事業	家庭で不要となったこども服や家具類などをリユースすることにより、資源の有効活用及びごみの発生抑制を図り、ごみの減量を促進します。	家庭ごみ事業課	168

《目標4》

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額 (千円)
自然環境啓発事業	自然環境に関する講座や体験型のイベント等を委託や市民との協働により実施します。また、ふれあい緑地1街区のビオトープを活用した自然環境啓発や地域コミュニティの醸成を行います。	公園みどり推進課	6,107
自然環境保全事業	森林整備計画の運用とともに、市民との協働による里山(島熊山緑地等)の保全や環境学習等を実施します。また、保護樹・保護樹林の指定及び所有者への助成や森林病虫害・クビアカツヤカミキリ等の防除など、様々な自然環境の保全事業を行います。	公園みどり推進課	3,292
地域美化活動事業	市の管理地を個人、団体が自主的に清掃する地域清掃活動に対して、市がごみ袋の提供や清掃用具等の貸出し、ごみの回収などの支援を行います。	美化推進課	7,506
花いっぱい運動事業	駅前や道路等に設置するフラワーポットや花壇の草花、バラ園や花しょうぶ園などの育成管理を行います。また、地域での緑化活動への支援のほか、地域団体や民間活力などの資源を活用し、お花でまちなかを彩る「とよなか花いっぱい大作戦」を展開します。	公園みどり推進課	54,507

事業名称	内 容	主な 担当部局	予算額 (千円)
緑化推進事業	市民や事業者等が取り組む緑化活動に対して、緑化樹の配付や道路沿いに設置する生垣や樹木への助成を行います。また、市民緑地設置管理計画の認定や緑地協定の認可等を行います。	公園みどり 推進課	3,681
みどりの基本計画 進行管理事業	環境審議会等で審議するなど計画目標及びモニター指標を用いて、施策に基づく事業の状況把握と評価を行うとともに、豊中市環境報告書「とよなかの環境」や市のホームページなどで進行管理に関する内容を公表し、施策に基づく事業の推進に反映します。令和9年度の計画改定に向けて、みどりの現状を把握・分析し、現行計画の検証・課題整理を行うため、緑被量調査及びみどりに対する市民意識調査を実施します。	公園みどり 推進課	12,113

《目標5》

事業名称	内 容	主な 担当部局	予算額 (千円)
環境保全条例推進	開発事業等による環境配慮の協議や環境影響評価の実施に伴う届出を受け付けます。	環境指導課	3,917
水質汚濁関係業務	市内の水質汚濁に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じます。	環境指導課	8,244
騒音・振動関係業務	市内の騒音・振動に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じます。	環境指導課	3,353
大気汚染関係業務	市内の大気汚染に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じるとともに、アスベスト対策に取り組みます。	環境指導課	25,992
空港周辺対策事業	安全・環境対策の徹底並びに利便性の向上等について、大阪国際空港周辺都市対策協議会（10市協）や全国民間空港関係市町村協議会（全民協）を通じて国や大阪国際空港の運営者等への要望や協議を行い、安全運航の確保や航空機騒音の発生源対策、空港周辺対策等の推進を図ります。航空機公害対策推進市民運動団体に対する活動費補助や空港周辺環境整備事業助成の活用により、空港周辺対策の充実を図ります。	空港課	2,777

第3章 環境に関する情報発信

1. 市民・事業者みんなで取り組もう！

家庭でできること

環境交流センターを利用しよう

環境交流センターは、誰もが集える交流空間です。環境イベントの情報や交流テーブル、キッズスペースもあるので、近くに行ったときや交流したいときはぜひ利用しましょう。



詳しくはこちら

再生エネを利用しよう

日々の生活で使うエネルギーを再生可能エネルギー由来にすることで、温室効果ガスの排出量を減らすことができます。屋根に太陽光パネルを設置する、再生エネ電力プランを利用するなどいろんな方法があります。



SAFの利用に貢献しよう

豊中市では、使用済みの廃食油を集めてSAFに作りかえる取組を推進しています。家庭から出る「使用済み食用油」を捨てるのではなく有効活用しませんか。



詳しくはこちら

身近な生きものに親しもう

「生物多様性くらしナビ まいのち osaka」では楽しみながら生物多様性について、分かりやすく知ることができます。

生物多様性について学んでみましょう！



詳しくはこちら



クールスポットでひと涼みしよう

豊中市では市民のみなさまが暑さから逃れ休憩できる「クールスポット」を設置しています。夏の暑い日、お出かけ途中で熱中症になりそうなときは、ぜひクールスポットをご利用ください



詳しくはこちら

事業所でできること

市民公益活動支援センターを利用しよう

市民公益活動支援センターは市民・事業者・団体の公益活動をサポートする施設です。

社会貢献をお考えの方は、ぜひ市民公益活動支援センターにご相談ください。



詳しくはこちら

脱炭素経営に取り組もう

中小事業者にも脱炭素経営が求められているため、豊中市では中小事業者に向けたセミナーのアーカイブ配信を行っています。

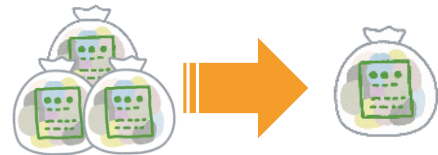
脱炭素とは何か、どんなメリットがあるのか、何をしたらよいか、今後の取組み方に悩んでいる事業者の方は是非ご覧ください。



詳しくはこちら

ごみ処理機設置補助を活用しよう

市内に事業所を有する事業者のみなさまに向けて、ごみ処理機の設置にかかる費用の一部補助を実施しています。



詳しくはこちら

花いっぱい大作戦に協力しよう



豊中市では花いっぱいのまちをめざし、花いっぱい大作戦を推進しています。

花を育てるサポーターや、活動を支えてくださるスポンサー等、花いっぱいのまちづくりにぜひご協力ください。



詳しくはこちら

化学物質の排出を抑制しよう

事業者からの化学物質の排出については、法律や条例で管理・抑制が義務付けられています。

きれいな水や空気を保つため、排出抑制に取り組みましょう。



2. 動画コンテンツ

環境に関する内容を市民、事業者のみなさんに知っていただくため、市のホームページ、SNS などのほか動画共有サイト YouTube「とよなか環境TV」にて環境等に関する動画を公表しています。

令和7年度（2025年度）に新たに追加した動画を一部紹介しています。

とよなか環境TV

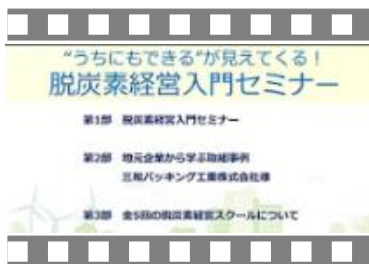
ごみの分別・出し方、食品ロス、公園の遊具の使い方、地球温暖化防止に向けた取り組みといった環境等に関する動画を紹介しています。



～すすむんて行く！クールスポット！～
クールスポットについて紹介しています。



イベント用 分別ごみ箱について
無料で貸出しを実施しているイベント用分別ごみ箱について紹介しています。



”うちにもできる”が見えてくる！
脱炭素経営入門セミナー
中小事業者を対象とした脱炭素経営セミナーのアーカイブ配信です。



再生資源等の分け方・出し方
(勘違いしやすいものについて)
再生資源等の出し方で勘違いしやすいものについて紹介しています。



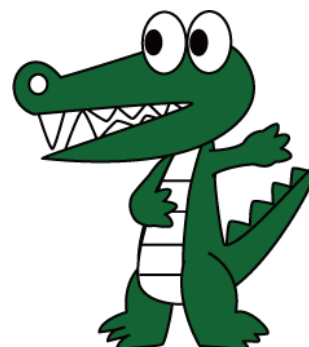
令和7年度（2025年度）まち美化ポスター
入賞作品紹介
まち美化ポスターの入賞作品を紹介しています。



令和7年度（2025年度）まち美化ポスター
全応募作品紹介
まち美化ポスターの全応募作品を紹介しています。



事業系ごみ計量のススメ
ごみを計量することのメリットや計量方法の解説について紹介しています。



3. 環境イベント

環境に関するイベントについては、広報とよなかや市ホームページ、SNS等で公表しています。

豊中市ホームページ>イベントを探す>まちづくり・環境
<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/event/machi/index.html>



○令和8年度(2026年度)に実施予定の主な環境イベント

複数開催

イベント名	開催時期	内容	担当課等
わがまちクリーン大作戦	年2回	自治会、老人会、団体などに呼びかけ、市内全域の清掃活動を実施	美化推進課
天竺川周辺清掃	年2回	市民や団体が参加し、西願橋周辺の清掃を実施	美化推進課
おもちゃ病院	月1回	大切なおもちゃの診察と治療を行っており、部品交換の場合は実費ですが、診療は無料。モノを長く使ってもらうため、壊れたおもちゃの修理を実施。部品代は実費。	環境交流センター
ぴったんこ隊	年2回程度	大学生と一緒に環境問題を学ぶ参加・体験型の連続講座の実施。	環境交流センター
ふれあい緑地自然学習教室	年6回程度	田んぼ体験隊、ピオトープ学び隊、みんなで生き物発見隊、暮らしに自然を、生物多様性教室など実施。	公園みどり推進課
クリーンランド施設見学会	随時	家庭から排出されたごみや資源物がどのように処理されているのかを実際に見ていただくことで、3Rの大切さを学ぶ。	豊中市伊丹市クリーンランド
リユースコーナー&食器リユース市	月1回程度	不用となり持ち込まれたもののうち、まだ使用可能と思われるものを展示し、必要とされる方に譲渡。	豊中市伊丹市クリーンランド
市民講座	月1回程度	ペットボトルで飛行機作りやラップの芯で万華鏡づくりなどを実施。	豊中市伊丹市クリーンランド
ジョイントひろば	年2回	クリーンランドを豊中市・伊丹市両市民をつなぐ交流の場として、両市で活動する団体のPRや、ごみの減量分別に関する啓発を行う情報発信の場を提供する。	豊中市伊丹市クリーンランド

春

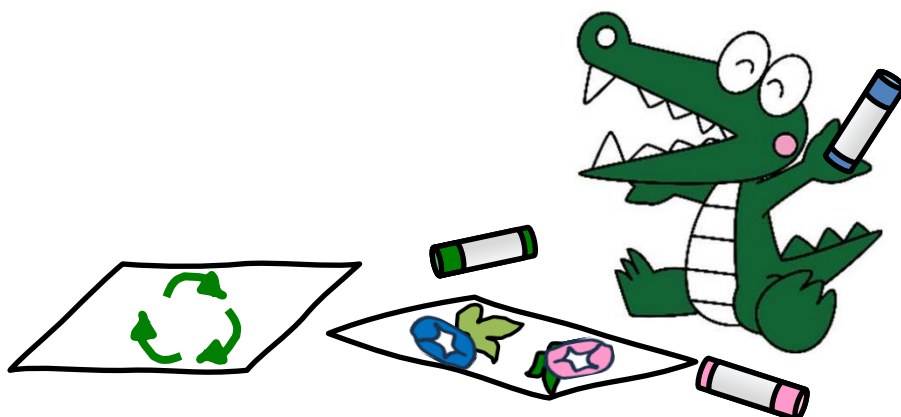


イベント名	開催時期	内容	担当課等
宮山つつじ園公開	4月	約1,000本のコバノミツバツツジが植えられている、宮山町の春日神社裏の宮山つつじ園を開放。	公園みどり推進課
スプリングフェスタ	4月	花とみどりの相談所で豊中緑化リーダー会や緑化リーダー養成講座の受講生などの協力により開催。花苗の寄植え体験や花苗・苗木のプレゼントなど。	公園みどり推進課
ふれあい緑地フェスティバル	5月	豊島北校区航空機公害対策連合会などと、服部西町のふれあい緑地で開催。金魚すくいや消防車の展示のほか、スタンプラリーなど。	公園みどり推進課
ヒメボタル学習会・観察会	5月	春日町ヒメボタル特別緑地保全地区に生息するヒメボタルの生態や保全活動などについて、クイズなどを交えて学ぶとともに、現地での観察会を行う。	公園みどり推進課

夏



イベント名	開催時期	内容	担当課等
里山デイキャンプ in NOSE	7月	能勢町との森林環境保全に関する自治体間連携協定に基づき、両市町在住の小学生を対象に合同で自然体験型環境学習を実施。	ゼロカーボンシティ推進課
親子で収集車の乗車体験・見学会を開催	8月	環境に配慮した生活を実践できる人づくりをコンセプトに、3Rの重要性について理解を深め、環境や資源の重要性について正しい認識を育てるため、親子参加型の環境学習を開催。	家庭ごみ事業課
リサイクル作品展	8月	リユースやリサイクルについて考え・学ぶ機会とするため、小学生がペットボトルや紙パックなど家庭で不要となったものを利用した作品を展示。	環境交流センター



秋

イベント名	開催時期	内容	担当課等
豊中緑化リーダー会 展	10月	豊中緑化リーダー会の主催により、花とみどりの相談所で開催。日ごろの活動のパネルや作品の展示や、花壇植付け体験などを実施。	公園みどり推進課
親子で楽しく間伐体験	10月 or11月	豊中市在住の小学生と保護者を対象に、大阪府能勢町で現地体験（伐倒見学、間伐体験、丸太切り体験など）を実施。	ゼロカーボンシティ推進課
美化推進重点地区強化月間	11月	美化推進重点地区に指定した阪急豊中駅・庄内駅、大阪モノレール・北大阪急行千里中央駅周辺で巡回指導の強化、清掃活動を実施。	美化推進課
とよなか市民環境展	11月	市民団体・事業者・行政・学校などの環境の取組みを展示・発表する場であり、市民や小学生が環境について学べる場。環境をテーマとした市内の一大イベント。	NPO 法人 とよなか市民環境会議 アジェンダ21
とよなかエコ市民賞表彰式	11月	市内で環境活動に自主的かつ積極的に取り組み、模範となる団体を表彰。	とよなか市民環境会議
水平リサイクルを学ぶ工場見学	11月	循環型社会・脱炭素社会の実現に向けて市が取り組んでいるペットボトルの水平リサイクルについて、親子で楽しく学べる工場見学の実施。	減量計画課
ボランティア養成講座	11月	環境意識の向上と3R推進の裾野を広げることを目的にボランティアを募集し、施設見学対応、部会活動、各イベントへの参加等をしていただくための養成講座を開催。	豊中市伊丹市クリーンランド
まち美化ポスター展	12月	市内小中学生から募集したポスターの入選作品を市ホームページやYouTubeで紹介。	美化推進課

冬

イベント名	開催時期	内容	担当課等
とよなかキッチンカーイベント	1・2月	都市公園におけるキッチンカー出店事業の認知向上とふれあい緑地の活性化に繋げる取組みの実施。	公園みどり推進課
幼児図画展	2月	市内こども園などから募集した図画の入選作品を市ホームページやYouTubeで紹介。	美化推進課
親子ぐるぐるフェス	2or3月	モノを大切にする習慣と、ごみの減量を意識したくらしを考えるため、制服や学用品のリユース、絵本の交換会、小学生によるフリーマーケットなどを実施。	環境交流センター

第4章 用語解説

あ 行

【アスベスト】

天然に産出する繊維状けい酸塩鉱物の総称。石綿（せきめん、いしわた）とも呼ばれる。耐久性や耐熱性があり、建築材料等に使用されてきたが、繊維を吸入することで肺がんを起こす可能性があることから、現在は原則として製造や使用が禁止されている。

【一般廃棄物】

「産業廃棄物」以外のすべてのごみのこと。

【雨水排水整備率】

雨水排除計画を立てた全体面積のうち、下水道整備を完了した面積の割合のこと。

【雨水利用】

雨水を貯留し、トイレの洗浄水や植木の散水、洗車、防火用水等に有効利用する。上水道の節水や洪水などの災害防止などの効果が得られる。

【屋上緑化】

建築物の屋上など、構造物上に人工の地盤をつくり、そこに植物を植えて緑化すること。緑化によって、ヒートアイランド現象の緩和、省エネルギー、大気の浄化等の効果がある。

【おゆずりぐるり】

豊中市と市内で活動する市民団体等によって実施している子ども服リユースの取組みのこと。常設拠点やイベントで子ども服の回収・配布等を行っている。

【温室効果ガス】

Greenhouse Gas, GHG とも表す。太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあるガスのこと。「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O) のほか、ハイドロフルオロカーボン類 (HFC)、パーフルオロカーボン類 (PFC)、六ふつ化硫黄 (SF₆)、三ふつ化窒素 (NF₃) を加えた7種類のガスが削減対象の温室効果ガスと定められている。

か 行

【カーボン・オフセット】

日常生活や経済活動に伴う温室効果ガスの排出について、どうしても削減できない排出を他で埋め合わせる。埋め合わせの手法として、温室効果ガスの削減

活動に投資することや、他の場所で削減された二酸化炭素削減量をクレジットという形で購入するなどの手段がある。

【環境価値】

再生可能エネルギーが持つ「発電時に温室効果ガスを排出しない」という付加価値のこと。

【環境基準】

環境基本法に基づいて、政府が定める環境保全行政上の目標。人の健康の保護および生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として定められたもの。大気、水質、土壌、騒音について定めているが、振動については定められていない。ダイオキシン類に関しては、ダイオキシン類対策特別措置法に基づいて、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染について定められている。

【環境配慮】

事業活動及び市民生活に伴って生じる、環境保全上の支障の原因となる環境への負荷の低減を図り、良好な環境の実現に寄与すること。

【協働】

まちづくり等の事業において、市民・NPO法人・事業者・行政等の各主体が、目的を共有し、対等な立場で相互に理解を深めながら、それぞれの特性を活かして協力・連携して取り組むこと。

【グリーンインフラ】

自然環境が有する多様な機能を活用し、様々な社会問題を解決しようという考え方。

【光化学スモッグ】

自動車や工場の排出ガスに含まれる窒素酸化物や炭化水素などが太陽の紫外線により反応し、大気が白くモヤがかかった状態になること。

【ごみ処理機】

生ごみ等の水分を多く含むごみを、発酵・加熱・乾燥等の方法により、減量・分解・堆肥化する機械のこと。

さ 行

【再生可能エネルギー（再エネ）】

「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律（エネルギー供給構造高度化法）」で「エネルギー源として持続的に利用することができる」と認め

られるもの」と定義されている。太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスが指定されている。

【循環型社会】

ごみをなるべく出さずに、物質資源の再使用や廃棄物の再利用で、天然資源の消費量を減らし、環境負荷をできるだけ少なくした社会。従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄型社会」に代わり、今後めざすべき社会像として、平成12年(2000年)に「循環型社会形成推進基本法」が制定された。

【省エネルギー(省エネ)】

使用するエネルギーをより少なくして、同じ効果を得ること。昭和54年(1979年)に「エネルギーの使用の合理化に関する法律」略称「省エネ法」が定められており、その中で「エネルギーを使用する者は、～中略～エネルギーの使用の合理化に努めなければならない」とあり、エネルギーを使用する事業者に省エネに取り組むことを求めるとともに、国民の理解と協力を求めている。

【食品ロス】

食品廃棄物のうち、食べ残しや賞味期限切れに伴い廃棄されたものなど、本来食べられるにもかかわらず捨てられているもの。

【スマートハウス】

太陽光発電等でエネルギーを作り、蓄電システムでエネルギーを貯め、外壁や窓等の断熱性能を高め、高効率な省エネルギー設備の導入により、エネルギー消費量を大幅に減らすとともにITを活用してエネルギーを賢く使う住宅のこと。

【生物多様性】

生き物たちの豊かな個性とつながりのことで、これらの生命は一つひとつに個性があり、直接または間接的に支え合って生きている。「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つのレベルの多様性がある。

【ゼロカーボン】

温室効果ガス排出量から植物による炭素固定等の吸収量を差し引いて排出量を実質的にゼロにすること。

た 行

【ダイオキシン類】

ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)およびコプラナーポリ塩化ビフェニル(Co-PCB)の総称。その発生源は廃棄物焼却のほか、燃焼工程を持つ製造業、農薬の不純物、

PCB製品等が指摘されている。

【脱炭素経営】

企業が事業活動で排出する温室効果ガスを実質ゼロにすることをめざす経営戦略。経営リスク低減や成長のチャンス、企業価値向上などのメリットがある。

【脱炭素社会】

温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量が均衡し、実質ゼロとなる「カーボンニュートラル」を実現する社会。

【地球温暖化】

石油・石炭等の大量消費により、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出量が大幅に増加し、地球の気温が上昇すること。

【電力のCO₂排出係数】

電気を1キロワット時(kWh)使用した際に排出される二酸化炭素(CO₂)の量を示す数値。

排出係数は、電力会社の火力、原子力、水力等といった発電方法の割合によって異なり、毎年変動する。家庭や事業所等での電気の使用によるCO₂の排出量は、「電力使用量」に電力を供給する電力会社が算出する「排出係数」を乗じて算出している。

【豊中アジェンダ21】

市民・事業者・行政が「協働」と「パートナーシップ」により推進する行動計画で、豊中市における「ローカルアジェンダ21」に位置づけられている。行政計画である「豊中市環境基本計画」と両輪となって環境への取り組みを進めるための計画で、平成11年(1999年)3月に策定された。平成30年(2018年)に第3次を策定し、令和5年(2023年)6月に改定された。

【豊中エコショップ】

廃棄物の発生抑制や再資源化等の環境に配慮した取り組みを行っているとして豊中市が認定した市内の店舗。

【とよなか公園魅力アップツリー事業(寄付樹木植樹事業)】

第2次豊中市みどりの基本計画の基本理念である「まちなかに人とみどりの笑顔があふれる豊中」の実現に向けた事業の一つとして、市民や事業者からの寄付で公園に樹木を植え、公園の魅力向上を図る事業。寄付により植樹される樹木には名前やメッセージを書いたプレートを設置できる。

【豊中市一般廃棄物処理基本計画】

「廃棄物処理法」および「廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」に基づき、循環型社会の構築に向けて豊中市が取り組む基本施策と、市民・事業者・行政が取り組むべき基本方向を定めた計画。第4次計画は

平成30年(2018年)に策定し、「協働で取り組む循環型社会の構築」を基本理念として定め、令和9年度(2027年度)に平成28年度(2016年度)実績より焼却処理量を8%削減させることを減量目標としている。

【豊中市環境基本計画】

平成7年(1995年)10月に制定された豊中市環境基本条例に基づき、市のめざす目標及び基本方針並びに総合的な施策の大綱を示す計画。「第3次豊中市環境基本計画」は平成29年度(2017年度)に策定し、令和9年度(2027年度)までの10年間を計画期間とし、市民・事業者・行政のパートナーシップのもとで総合的に環境問題に取り組むこととしている。

【豊中市環境審議会】

学識経験者・市民・事業者・市民団体などで構成されており、環境基本計画に関することや、環境の保全および創造に関する基本的事項を調査審議する市長の附属機関。

【豊中市地球温暖化対策実行計画】

平成11年(1999年)に施行された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、市の事務・事業から排出される温室効果ガス排出量削減計画を定めた計画。第4次計画を平成29年度(2017年度)に策定し、令和4年度に見直しを行った。これにより、令和9年度(2027年度)までに、平成25年度(2013年度)比42%削減に向けた対策を進めることとしている。

【第2次豊中市地球温暖化防止地域計画(改定)～とよなか・ゼロカーボンプラン～】

平成30年(2018年)3月に策定した「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画(チャレンジ・マイナス70プラン)」を見直し、令和4年(2022年)3月に策定。市民1人あたり温室効果ガス排出量を平成2年度(1990年度)比で令和9年度(2027年度)までに38.3%削減、令和32年度(2050年度)までに実質ゼロにする目標を設定。

【豊中つばさ公園『ma-zika』】

飛行機や空港を間近で鑑賞できる公園として、令和7年(2025年)8月から一部開園され、令和9年(2027年)3月に全面開園が予定されている大阪国際空港南側に隣接する公園

【とよなか花いっぱい大作戦】

駅前花壇などに協賛(寄付)をいただく「スポンサー」と自宅や会社の前、公園などで花壇活動を行う「サポーター」を募り、市民・事業者・行政が一体となって、花いっぱいのまちづくりを進める事業。

【豊中市みどりの基本計画】

平成11年(1999年)5月に策定された「都市緑地法」に基づく、市の緑地の保全および緑化の推進に関する基本計画。平成27年度(2015年度)から3ヶ年かけて見直し、平成29年度(2017年度)に、第2次豊中市みどりの基本計画を策定。

【とよなか市民環境会議】

豊中市において平成8年(1996年)に、市民・NPO・事業者・行政が互いに協力し、地球環境を守るために発足した、市長を会長とするパートナーシップ組織。平成19年度(2007年度)に、市域で積極的に環境活動に取り組む市民団体や事業者を表彰する「とよなかエコ市民賞」を創設したほか、市民・事業者・行政の行動計画である「豊中アジェンダ21」を策定している。

【豊中市立環境交流センター】

環境情報サロンとリサイクル交流センターを統合し、平成25年(2013年)4月にオープンした施設。「NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21」が指定管理者として運営しており、地球環境の保全等に関する活動や教育のための交流の場として、情報の提供やイベントの開催等が行われている。

【豊中市立市民公益活動支援センター】

令和5年(2023年)2月に庄内コラボセンター(シヨコラ)内に開設。市民公益活動を推進するための施設で、市民活動に関する相談やサポートを実施。

な 行

【二酸化炭素(CO₂)】

動物の呼吸や、石油、石炭等の化石燃料の燃焼によって発生する気体。炭酸ガスともいう。大気の一成分であり、それ自体は有害ではないが、地上から放出される熱を吸収し、地球外に熱が逃げにくくなる働きがあるため、その濃度が高まると地球温暖化を招く。

は 行

【パートナーシップ】

市民・NPO・事業者・行政などが、自分たちの役割や責務を自覚することを通じて築いていく、協力関係のこと。

【壁面緑化】

主に建築物の壁を植物で覆い緑化すること。緑化によって、ヒートアイランド現象の緩和、省エネルギー、大気の浄化等の効果がある。

【ペロブスカイト太陽電池】

ペロブスカイトと呼ばれる結晶構造を利用した太陽

電池のこと。従来のシリコン系太陽電池に比べ、軽量であり、薄くて曲げやすいことから、耐荷重の低い屋根や曲面、壁面などへの導入が期待されている。

ま 行

【マチカネポイント】

豊中市内の加盟店舗で利用できる豊中市独自のデジタル地域ポイント。

【みどり率】

樹林・樹木、草地、農地、水面（河川・水路やため池）、屋上緑化の面積の合計が市域全体の面積に占める割合。豊中市が独自に設定した指標。

ら 行

【緑被率】

樹林地、農地、公園緑地などみどりで覆われた土地（緑被地）の面積を、地域の行政面積で除した割合。豊中市では、樹林・樹木に覆われた土地の面積の合計が市域全体の面積に占める割合を緑被率と定義している。

数字・アルファベット

【B t o B】

「ボトル to ボトル」の略で、使用済みペットボトルを原料化（リサイクル）し、新たなペットボトルとして再利用すること。

【N b S】

「Nature-based Solutions（自然を活用した解決策）」の略で、健全な自然生態系が有する機能を活かして社会課題の解決を図ること。主目的の社会課題の解決に加え、複数の効果や自然による癒し、人の健康への好影響等の波及効果も期待されている。

【N P O】

「Nonprofit Organization（ノンプロフィット・オーガニゼーション）」の略で、日本語では「民間非営利活動組織」と呼ばれている。平成10年（1998年）にはNPO法（特定非営利活動 促進法）ができ、法人として認められるようになった。活動分野は「福祉・保健」「教育」「環境」「文化」「人権」「国際協力」「消費」など。

【N P O法人とよなか市民環境会議アジェンダ21】

平成8年（1996年）に発足した「とよなか市民環境会議」のワーキンググループから「とよなか市民環境会議アジェンダ21」として自立し、平成15年（2003年）にNPO法人格を取得した組織。

【P D C Aサイクル】

計画(Plan)を立てて、実施(Do)した結果を、点検(Check)し、見直す(Act)、継続的改善を目的とした仕組み。

【PM2.5(微小粒子状物質)】

大気中に浮遊している2.5μm以下の小さな粒子。肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系および循環器系への影響が懸念されている。

【S A F】

「Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）」の略称で、循環型の減量で製造された航空燃料のこと。バイオマス由来の原料や廃食油等を基に作られており、従来の化石燃料と比べて二酸化炭素の排出量を大幅に削減できる。

【S D G s】

国連の「持続可能な開発サミット」（2015年9月）で採択された17のゴールと169のターゲットからなる開発目標のこと。それまでの開発目標には含まれていなかった平和や暴力等の課題、格差の拡大や環境問題等にも取り組む包括的なもの。各目標は密接に関連しており、経済、社会、環境の3つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発をめざしている。

【S D G s 未来都市】

地方公共団体によるSDGsの取組みをさらに推進していくため、モデルとなる先進都市を「SDGs未来都市」として内閣府が選定するもの。SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面の統合的取組みによる相乗効果、新しい価値の創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域が選定される。

【Z E H（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）】

住宅の高断熱化や高効率設備の導入により消費エネルギーを減らし、太陽光発電等でエネルギーを創り出すことで、住宅のエネルギー収支を実質ゼロ以下にする住宅。

【3 R】

「リデュース（Reduce：廃棄物等の発生抑制）・リユース（Reuse：再使用）・リサイクル（Recycle：再生利用）」の頭文字をとった、廃棄物をできるだけ出さない社会をつくるための基本的な考え方。平成12年（2000年）に制定された「循環型社会形成推進基本法」では、廃棄物処理やリサイクルの優先順位を(1)リデュース(2)リユース(3)リサイクルとし、さらに(4)熱回収(サーマルリサイクル)(5)廃棄物の適正処理としている。

豊中市環境報告書
とよなかの環境
～2024 年度評価と今後に向けて

発行 令和 8 年(2026 年)3 月
編集 豊中市環境部ゼロカーボンシティ推進課

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1
TEL.06-6858-2128 / FAX.06-6842-2802
E-mail kankyoukeikaku@city.toyonaka.osaka.jp
ホームページ <https://www.city.toyonaka.osaka.jp/>
(本報告書から引用する場合は、出典の記入をお願いします。)
